

2020 年度後期「学生による授業評価」に関する検討会

報告書

学科科目

目次

国際英語学科	国際英語専攻	p. 1
人文学科	哲学専攻	p. 9
	日本文学専攻	p. 11
	歴史文化専攻	p. 13
国際社会学科	国際関係専攻	p. 15
	経済学専攻	p. 16
	社会学専攻	p. 17
	コミュニティ構想	p. 18
心理・コミュニケーション学科	心理学専攻	p. 19
	コミュニケーション専攻	p. 21
数理科学科	数学専攻	p. 24
	情報理学専攻	p. 26
女性学研究所（女性学・ジェンダー科目）		p. 28

報告日：2021 年 6 月 3 日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：国際英語学科国際英語専攻

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：本合 陽

■検討会実施日 2021 年 5 月 28 日

■出席者数 17 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

- <学生>時々難易度の高すぎる論文を読まされることがあった。ファイナルエッセイに使えるものではなかったため、非常にきつかった。<教員のフィードバック>ファイナルエッセイに繋がる内容を考えたつもりでしたが、その点は説明不足であったかもしれません。ただ、難易度の高いものになってしまった点は反省します。
- <学生>3年間同じ先生を受講している人たちと一緒に学ぶのは差が生まれていると感じた。<教員のフィードバック>公平を旨にして授業をしているつもりでしたが、このような印象を与えたとするなら反省しなければなりません。
- <学生>主に英語で授業を進められていましたが、先生の英語が多々聞き取りづらかったです。特に、英語を話している最中に「えーと、えーと」などが多く、聞き取りづらかったです。改善すべき点とありますが、このことに関しては、先生のスピーキング力の問題だと思います。<教員のフィードバック>スピーキング力を上げる努力は今後も続けたいと思います。ただ、準備が十分でなかったことが大きな要因となっているので、今後は雑用を整理し、準備をもっとしっかり行う時間を作るようにしたいと思います。
- <学生>学生に寄り添うような授業の雰囲気良かった。<教員のフィードバック>zoomによる大人数の講義科目のため、受講生の皆さんからのメールによるコメントを参考に、できるだけ皆さんの関心に即して授業を進めるようにしました。
- <学生>授業の内容が面白く、説明も分かりやすかった。<教員のフィードバック>説明が不明瞭だったとき、チャットですぐに質問が入るなど、受講生の皆さんが積極的に反応してくれましたので、補足の説明ができました。
- <学生>成績基準の目安をより明確に示してくれると、さらに的を射た勉強ができたかと思う。<教員のフィードバック>レポート返却の折に、改善すべき点をより丁寧説明すると、良かったかもしれませんね。
- <学生>昔の文学などを現代の社会情勢や世界で起きている問題とリンクさせて読むことができよかった。またジャンルが違うものを読むことができたことも良かった。<教員のフィードバック>古い作品は読みにくい部分もあるので、できるだけ受講生の皆さんに身近に感じてもらえるように、作品の時代背景を現代と比較しながら説明することでわかりやすくなるのではと考えて授業を進めました。受講生の皆さんの関心も様々なので、ジャンルが偏らないようにしました。
- <学生>学生の意見へのフィードバックが充実していて、一人ひとりの話を聞いてくださった。<教員のフィードバック>演習にしてはやや人数が多かったのですが、皆さんが積極的に発言してくださったので、オンラインではありましたが、意思の疎通ができたと思います。
- <学生>テキストを読む際のポイントを提示して下さったので、予習もしやすかった。またグループディスカッションで他の人との意見交換ができる機会があってよかった。<教員のフィードバック>ブレイクアウト・ルームを活用し、グループディスカッションをしましたが、みなさん活発に意見交換をしていたので、もう少しそのような機会を増やすべきだったと考えています。

- <学生>授業は英語なのに、ブレイクアウト・ルームでのグループ・ディスカッションは日本語になっていたのが、残念だった。日本語ならブレイクアウト・ルームの活用は少なくともよいと思う。<教員のフィードバック>ブレイクアウト・ルームでのディスカッションも英語で活発にできるように、トピックを絞るなど、工夫が必要であると認識しました。
- <学生>wifiトラブルに速やかに対応してくださり、良かったです。<教員のフィードバック>wifiトラブルにはこちらでもドキドキでしたが、無事に授業ができて安堵しました。
- <学生>すべて英語で行う授業で不安でしたが、分からないところは説明をしてくださり、フォローがあったため、楽しく参加できました。<教員のフィードバック>対面でないため、みなさんが不安にならないように、説明に不明瞭なところがないか確認しながら授業を進めるようにしました。
- <学生><教員のフィードバック>課題について、フィードバックを丁寧にする事で、オンラインでも一方通行の授業にならないように努めたつもりですが、まだまだ充分でなかったかもしれません。
- <学生>授業内で動画を見る事が多く、理解を深めることができた。<教員のフィードバック>担当者一同、情報交換をし、今後も適切な動画を紹介したいと思います。
- <学生> google classroom で出された課題に取り組むためにはドキュメントで編集する必要があったがそれがやりにくく、word形式での課題形式も検討してほしい。<教員のフィードバック> Google classroom ではwordで課題を出しているのだが、学生がその課題に取り組む際にはword形式ではなく、googleドキュメントになっているようです。また、wordで課題を出すと「文字化けしてしまい読めない」と言われる場合もあり、まだ解決できていない謎が多いです。去年はこの問題に取り組む時間がありませんでした。今年解決方法を見つけます。
- <学生>Reading教科書の予習範囲の解答例や意図で理解しづらいものがあり、授業の答え合わせでも先生が「これは問題が理解しづらいので答えが出にくい」と言う場合があった。そのような問題は、事前に予め指摘しておいてもらいたい。<教員のフィードバック>今後はそのような箇所については配慮して事前に通達するようにします。
- <学生>課題が多く、また、グループ発表など準備に大変なものが1週間前に提示されることもあった。もっと時間に余裕を持たせてほしい。<教員のフィードバック>この授業は初めてではないがオンラインでは初めてであったため、従来は授業では直接配布していた資料をアップロードする形式にする手間など準備が後手後手に回ることが多かった。そのため、課題を課すタイミングが遅れることもよくありました。今後は持っている授業の教材のほぼ全てがオンラインに対応したものに交換されているので早めに課題の告知を行うつもりです。
- <学生>文学を専攻していない生徒が受講しているのにゼミのような授業内容であり、専門外の学生にはわかりづらかった。もう少し、文学はどのようなものであるかどのように進めるものなのか基礎的な部分を十分に説明してもらいたかった。<教員のフィードバック>英語文学文化専攻と異なり、国際英語専攻では専門の細分化が進んでいるため、3年生の学生が「一通りすべての分野の内容の基礎的な授業は受けている」わけではなかったことに気づきませんでした。比較文学そのものは自分も担当するのは初めてなのでそれについて難しい話をしたつもりはありませんでしたが、それ以前に文学の読み方などに関する説明が必要であることに注意して授業をしていきます。
- <学生>授業が時間通りに終わらないことがあった。<教員のフィードバック>今後気をつけて時間通りに終わるようにします。
- <学生> ・様々な時代の文学に触れることが出来たので、それぞれの時代背景と作品性を幅広く学ぶことが出来ました。授業の始めに学生間で確認しあう時間を作ってくださいるので、個人の学習とグループ学習の両方が充実していました。 ・文献や課題だけではなく、その作品の背景や時代など周辺知識を多く学ぶことができ、文学的な要素の他に歴史的な要素、国や文化の違いなどにも興味を持てる授業だったのが良かったと思いました。 ・動画を流してくれることで、イメージすることが

- できた。授業前の課題の量が多く、終えることができなかった。〈教員のフィードバック〉コメントをありがとうございます。課題の内容や量については、学生の皆さんの負担や反応も考慮の上、調整や改善を継続したいと思います。
- 〈学生〉ブレイクアウトルームでのグループワークの際に、発言をあまりしない学生がいるため、グループで課題を進めるのが大変だった。〈教員のフィードバック〉コメントをありがとうございます。一般論としてもグループワークには学習上有益な点と、運営上難しい点の両面があり、ご指摘いただいた点も、認識されていると思います。グループ内で各学生が参加しやすくなるよう、できることがあるか、検討したいと思います。
 - 〈学生〉先生からの連絡が遅すぎて大変困りました。メールや、授業内の時間帯に zoom のチャットで授業内に質問を送っても、回答をされないことが多くありました。学生との意思疎通を図るためにも、最低限の連絡事項やメールの返信をなさるべきだったと思います。〈教員のフィードバック〉コメントをありがとうございます。今学期も全担当科目を初めて遠隔で実施しましたが、担当科目数も多かったため、各授業の LMS 管理、遠隔用の資料の準備等の作業に膨大な時間を取られてしまった影響で、授業連絡やメールへの対応は、可能な限りすみやかに、適切に公平に対応できるよう努力は続けておりましたが、確かに遅くなってしまったと思います。この点は真摯にお詫び申し上げます。この学期の事情に起因した部分もありますが、今後は注意したいと思います。なお、提出物を提出したという報告のメールや、特段の事情のない欠席の連絡等については、私からの確認の必要がない場合は返信しないことは多いです。授業中の zoom での質問には気づかないことがあったかもしれず、気づいた際には、その時点で対応をしていたつもりですが、見落としがありましたらお詫び致します。
 - 〈学生〉同じ内容の課題を何度も出され困惑した。〈教員のフィードバック〉ある特定の俗説に関して様々な観点から取り組んでもらえるように課題を設定したつもりですが、その意図が上手く伝わっていなかったようですので、今後は課題の意図をより明確にするように工夫したいと思います。
 - 〈学生〉いろいろなデータを基にいつも分かりやすく説明して下さってとても良かったです。授業の初めに生徒間で近況を話す時間を取ってリラックスして授業に入れるようにして下さったり、次のテーマに移る前に予想を話し合わせたりして興味を持たせて下さったり毎回異なる様々な工夫がされていたところは、さすが教授法の専門家だなと感じさせられる授業構成でお見事でした。宿題が多いところが大変でしたが、授業後に振り返って頭の中を整理する機会となったのでよかったと思います。有難うございました。〈教員のフィードバック〉オンラインの授業ということで、いつも以上に、教員と受講者の間で、また、受講者同士でも、双方向に話し合ったりしながら考えてもらう機会が多い授業となるように心がけました。また、受講者の皆さんに様々なデータや資料、具体例等を提示して、授業内容をかみ砕いて、より身近に感じてもらえるように準備させていただきました。
 - 〈学生〉課題に対する個人へのフィードバックが欲しかった。〈教員のフィードバック〉提出された課題の内容に見られた履修者全員に共通する重要な問題等に関するフィードバックは授業中にしていたつもりですが、一方、個人に特化したフィードバックが弱かったのだと思います。課題へのフィードバック機能等を使って個人的なフィードバックも頻繁にするように改善したいと思います。
 - 〈学生〉クラスメイト同士で意見交換をしても、あまり身にならなかった。先輩方の卒論を読む機会がもっと有れば、さらに良い卒論計画が立てられたと思う。〈教員のフィードバック〉こちらが設定した意見交換の方法に改善が必要のようですので、より効果的な方法を模索します。
 - 〈学生〉使用した英語のテキストが難しすぎた。〈教員のフィードバック〉今年度の授業の様子も見据えた上で、今後のテキスト選びの折に考慮したいと思います。
 - 〈学生〉・授業の事前事後の課題の分量が多すぎて大変だった。・非常に多くのことを考え学ぶ手がかりになったと。〈教員のフィードバック〉授業の事前事後の課題の分量が多すぎて大変だったという意見がありました。一方、非常に多くのことを考え学ぶ手がかりになったという意見もありま

した。担当者自身も、この授業をオンラインで行うのが初めてだったこともあり、履修者に課す毎回の課題や予習用の教材の出し方・分量など手探り状態だったところがあります。今後は他の科目とのバランスなども考えて改善しようと思います。

- <学生> ・むずかしかったが、対面の時より分かりやすいからいいのではないのでしょうか。・学生が作成したハンドアウトをもとに進めていくスタイルの授業でしたが、先生が毎度改めて説明を簡単にしてくださるので、理解が深まりました。・この授業を通してカナダについて興味が高まり、留学もカナダに行きたいと考えています。カナダ英語、歴史、について深く学べたのは自分の財産になりました。・グループで原稿を作りプレゼンすることは大変ですがとても楽しく勉強になりました。とても興味深い本でした。・特にありません。毎回の発表形式、面白かったです。・生徒が授業をするという形式だったので、自分が担当した箇所の内容はとても深く理解することができた。ただ、実際に授業内で発表する前に先生からのフィードバックが何もなかったため、自分の解釈が不安な箇所を不安なまま授業内で他の生徒に教えるという形になってしまった。事前に準備した発表内容に関して、先生からの訂正がある場合は、発表前に教えてくださるとありがたかった。 <教員のフィードバック> ・授業に対する好意的なコメントを多くいただき、大変ありがとうございます。この授業は、対面で行っていた2018年度、2019年度と比較して、全般に評価が上がりました。教員としても、遠隔となり、zoom と Google Classroom を使用するようになったことが、授業内容改善につながったのは嬉しい驚きでした。具体的には、Google Classroom において3日前までに発表資料を投稿してもらい、授業時はそれに基づいて発表者が発表、直後に資料に教員が加筆修正を入れたものをGCに投稿、という流れができました。最後のコメントで、「発表前に訂正を教えてください」とありましたが、発表にあたっていない学生が授業に集中できるよう、あえて発表直後としました。発表準備の際に内容の理解に不安がある場合は、前もって教員に質問してくれたらよいと思います。(遠隔なのでそれが難しかったのかもしれませんが。) 対面授業が再開されても、Google Classroom の利用は続けたいと思います。

- <Student> The use of breakout rooms was key in giving me opportunities to speak English.
<Teacher's feedback> This tool is an integral part of communicating online and without it students would lose a great opportunity to use their target language.

- <Student> Studying online provided a better opportunity to make friends than on campus as each class we communicated with different students in different breakout rooms.
<Teacher's feedback> The use of breakout rooms as a communicative tool helps to break down barriers students can come across on campus when trying to make and develop new friendships. Students are now becoming increasingly confident, which can only benefit the learning process.

- <Teacher's feedback> Only six students in my FYES provided feedback, but there were no comments. 総合的に判断して、あなたはこの授業に満足しましたか score was 3.7. In this particular class, I found that group work in fixed teams over the semester worked well, even though we only had online lessons. Throughout the course, students said that working in teams helped them learn better and motivate each other. Therefore, I plan to continue implementing this type of group work in the future.

- <Students> ・ The teacher told me interesting stories during the class, and even I, who is not good at English, enjoyed learning. ・ It was good to have a lot of group work. It took me some time to get used to it, but I felt that my listening ability improved by conducting all the lessons in English. ・ I'm looking forward to seeing you in the second semester. ・ I was able to communicate a lot with the people in my class ・ Because there was a native teacher and I could only communicate in English, there were some things I

couldn't understand. But I think my English ability improved. <Teacher's Feedback> I really want students to see that English is a tool for communication, not just for answering questions in the textbook. Sometimes it might be a little difficult, but that is true for whatever you learn. Working together we can do it! I am glad that you enjoyed the class. I enjoyed working with you.

- <Student> It was an English-speaking class, but there were still some parts that were difficult to do remotely. At first, the teacher's speaking speed was so fast that I couldn't hear it, but I was very grateful that he spoke slowly according to the students.

<Teacher's Feedback> Having the class remotely did present some problems that were new for us all. I hope overall it did not take away from your learning. I am aware that if I get excited about something, I talk faster. I always tell students that if they do not understand or if I speak too fast, let me know and I will slow down. I am glad you were able to let me know.

- <Student> It was nice to get opportunities of presentation though it was a bit difficult to present on Zoom. In addition, there were only ten students, so I could enjoy speaking and discussing with professor and every students. <Teacher's Feedback> Having a small class was great, but yes, giving presentations on Zoom was more difficult than in person. We were all doing it for the first time and had to deal with new programs and sometimes unstable internet connections, but on a whole, I think you all did very well.

- <Student> Since it was all held online, it was sometimes difficult to understand the details of the issues to be presented. I would appreciate it if you could give me more detailed instructions. <Teacher's Feedback> Yes, online work did present many new problems, but please remember that every homework assignment included an "instructions" section on Google Classroom that was read to the students at the time of giving the homework and students could refer back to it. Time was given at the end of the class to ask questions, and there was a class comment section that questions could have been asked if something was not clear. Please do not be afraid to ask questions.

- <Student> It was fun to be in your class and I have got used to making a speech in front of the screen. Thank you for fixing my grammar mistakes and telling me the answers even if I had a lot of questions. It was the best semester I should've realized that English is way more fun than history! <Teacher's Feedback> I will always help students who ask for it. As I say, I love it when students ask questions. Thank you for the great compliments, but as someone who has studied history, I think you can like both subjects equally! Thank you again!

- <Student> This course was very good opportunity to learn English skills of both academic and non-academic. Even though this course was online, we could hear teacher's voice clearly. / 週に2回も授業がありグループやペアに分かれて行うワークも多かったため、まだ一度も大学にいけず友だちも作るのが難しい中、この授業の中で友達ができとても良かった。また、先生の説明も丁寧でわかりやすかった。 / 今年度受講した中で、一番満足した授業であった。先生、同じクラスの仲間のおかげで、IELTS も自分が想像していたより高いスコアを取ることができた。毎回の授業で必ず一回は英語での発言の機会が与えられ、程よい緊張感があり、そのおかげで発音や表現が改善された。また、授業時間内のペアワークやグループワークのおかげで、オンライン授業という特殊な環境下でも友人を作ることができ、互いに学び合うことができた。課題や授業外のスピーキングテストの練習に対するフィードバックもとても分かりやすく丁寧で、英語表現の幅を大いに広げ

ることができたと思う。先生からの指摘を IELTS の本番で実践した結果、一番苦手だったスピーキングで最高得点を出すことができた。一年を通して充実した英語学習ができたのは、先生の素晴らしい授業のお陰だと思う。心から感謝の気持ちを伝えたい。〈Teacher's feedback〉 I'm very happy to hear that the students enjoyed the class and learnt from it. They were able to make friends and also to achieve the best-ever IELTS class average score (higher than 6).

- 〈Student〉 The great point of this class was an opportunity for group works. I could really enjoy the class every week, learning about isms with new classmates. 〈Teacher's feedback〉 I'm glad the students were able to enjoy this class and learn from it.

- 〈Student〉 This class was good opportunity to learn about citation and good tips for writing. / Students had many opportunities to ask each other. I think it is useful for us. 〈Teacher's Feedback〉 I'm glad the students were able to enjoy this class and learn from it.

- 〈Student〉 Good point: Students can think deeply about the literature/Using materials (literature, movie, video, etc.) helped with better understandings/Having a discussion time in class is interesting. Bad point: Only some people participate during discussion time or presentation/Some only rely on several people who speak in class, and they only repeat saying "I don't know," "I'm not sure," or even do not reply at all, so some people carries the weight, not to get a low grade. 〈Teacher's Feedback〉 I'm glad the students were able to enjoy this class and learn from it. Regarding the "bad point," I will make sure to make extra clear that group presentations do not count toward their academic assessment: if it did, some students might feel nervous about less hardworking students dragging their academic assessment grade down. Regarding discussion time, this is indeed a new difficulty to deal with when conducting online classes: unlike face-to-face classes, it's not as easy to see if all students are contributing equally. I will try to visit breakout rooms in Zoom as often as I can while students carry out pair- or group-work.

- 〈教員のフィードバック〉2020年後期の授業評価アンケートの対象となった科目は2科目であった。自由記述欄にコメントがあったのは、「毎週の課題が他の授業と比較して重かったように感じられました」とのコメントである。これについては、毎週「自身の考察を含めて書いて提出する」課題を与えていたが、なかには訳を考える課題で長さがある程度あり時間が相当にかかる者が含まれていたため、そういうものは2週間にわたって分けて提出するなど、今後検討して改善したい。授業担当者として嬉しかったこととしては両方の授業ともに、「設問6と設問7の授業の内容はわかりやすかった、教員の話し方は聞き取りやすかった、ところが評価が高かったことである。設問8の教科書や教材の内容の適切性が若干他の項目よりも評価が低いため、説明をより詳しく行なうなど扱ううえでさらなる工夫をしていく所存である。

- 〈Teacher's feedback〉 In TYRW, eight students responded. 総合的に判断して、あなたはこの授業に満足しましたか score was 3.8. One comment was 参考文献の書き方を学ぶ際に、ワーク形式で学んだことによって、さらに理解が深まりました。In the course, I spent a lot of time and utilized various activities to help students learn how to cite sources. Learning was done through peer feedback (on Zoom and Google docs), student-teacher conferences (on Zoom), checklists, open-ended questions, and a quiz on the APA conventions. This year, I plan to continue doing most of the same activities, increase student-teacher one-on-one interaction time, and administer one more APA/plagiarism quiz (two in total). One student wrote a comment in English about the final assignment on metacognition. I am not sure what

the comment means, but it might mean that the topic was new and challenging. This academic year, I am replacing it with a different assignment.

- <Teacher's feedback> For writing and discussion courses, online learning might be working fine. I believe that students miss the social component (interacting F2F). However, if debates and discussions are done in the physical classroom with students wearing masks, students would have to raise their voices. With 1.5 or 5 m of physical distancing required, students' voices would just become louder. I am not sure how productive and safe that kind of class would be. On the other hand, Zoom meetings are taxing on both students and teachers because it is difficult to try to engage in eye contact (impossible actually) and pay attention to students' facial expressions when their faces are shown in tiny squares on the screen.

- <Teacher's feedback> The feedback I received from the 8 classes that I received evaluations from were overwhelming positive. The majority of students rated all questions as "1s" or "2s". In two classes there was a minority that answered question 7, the ability to hear the teacher, as "not very clearly." Those same classes scored question 6, about understanding the content of the class higher, so it may have been a technical issue for them. I use a headphone set with the microphone close to my mouth, it could have been some interference from the internet connection.

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

- グループ活動は授業改善の一つの鍵を握ると思います。グループ活動をもっと活かして行くため、授業の組み立てにメリハリをつけ、グループ活動の位置付けをもっと考えて行くことが一つの方策になると思っています。

- 対面授業の場合は、グループ・ディスカッションの際、担当者が教室内を歩き、英語でディスカッションが行われているか確認できますが、オンラインのブレイクアウト・ルームでは、担当者はそれぞれのグループを訪問できても、なかなか全体の確認が難しいので、英語でも議論がしやすいように、トピックを絞り、またキーワードなどをあらかじめ与えることで、英語で意見が述べやすくなるよう工夫が必要であると考えます。

- 教科書や資料に基づいて授業を進めるのが原則ではありますが、それに関連する最新の出来事や参考資料を紹介することも意識していきたいと思っています。

- 課題を出す時は、その課題の意味・意義についても説明を加えていきたいと思っています。早めのタイミングで十分なフィードバックをするということは、Google Classroomを使い始めたことにより、これまでよりもやりやすくなりました。今後も続けていきたいと思っています。

- Placing a high value on application, and not just language proficiency, during the Zoom classes. I feel that students sometimes have a fear of not having their application recognised in a class with many breakout rooms and only one teacher. Ensuring students that, over the course of a semester/year, the teacher will recognise their application efforts by spending more and more time in the breakout rooms with them.

- In order to improve the classes, since we are once again teaching in an online context, I have encouraged students to use features in Google Classroom like the stream and class comments for communicating with each other and with me. Questions which are about class content are then visible and benefits everyone.

- I am also giving particular deadlines to when work must be submitted and having particular types of assignments being cyclical. This is to help students with time management.

- A small number of students feel that they do not get a chance to speak even though all students have the same opportunity for speaking when volunteers are requested. To solve this problem of perception, I will call on those students more than I have in the past.
- Concrete or Specific Means or Plans to Improve Classes I will make sure to make extra clear that group presentations do not count toward their academic assessment: if it did, some students might feel nervous about less hardworking students dragging their academic assessment grade down. Regarding discussion time, this is indeed a new difficulty to deal with when conducting online classes: unlike face-to-face classes, it's not as easy to see if all students are contributing equally to discussions. I will try to visit breakout rooms in Zoom as often as I can while students carry out pair- or group-work to ensure that all students are contributing equally.
- Because of the very high feedback scores for the FYES class, I think it would be best to teach the IELTS textbook right from the start of the first semester. Students have not expressed having any problems in my three years with starting on the second half of the Academic Writing Skills 1 textbook after the IELTS test in the second semester. I would recommend considering applying this approach to the official FYES syllabus to maximise students' IELTS scores.

報告日：2021年 6月 10日

■検討組織名(学科・専攻、研究所、科目運営委員会等)：人文学科哲学専攻

■責任者名(学科・専攻主任、所長、委員長等)：黒崎正男

■検討会実施日 2021年 5月 12日

■出席者数 5名(内、非常勤講師 1名)

1. 学生へのフィードバック(学生の要望に対する具体的な回答)

「他の人の意見をGoogle Classroom上で共有したのが理解を深めるのに役立ったと思います」「他の受講者の意見を聞く(見る)ことができるのはよいと思いました」という意見がありました。どちらもGoogle Classroomの「クラスのコメント」欄に授業に関するコメントを書き込むという課題を課した授業のものです。対面で意見を求めたときよりもみんな活発にコメントをしてくれたという印象を持ちました。受講生同士で意見を文章の形で共有することで学びが深まると思いますので、遠隔の授業に限らず、対面の授業にもこの種のやり方を組み合わせていきたいと考えています。

ZoomでWordのファイルを画面共有して、板書のように書き込みながら講義を行った授業について、「先生の説明と板書が同時並行でスピードがちょうどよかった」という意見があった一方、「内容に関してはとても詳しく学習できたので満足しています。ただ、生徒側に筆記で板書を取っていることを想定し、授業内で「板書をする時間」「話を聞く時間」を分けていただけたら幸いです。手で文字を書くスピードがパソコンのタイピングのスピードにはどうしても追いつけず、先生の話の満足に聞くことが出来ませんでした。それがとても残念でした」という意見もありました。学生によっては板書を筆記する余裕が持てなかったようです。対面であれば、さまざまな学生の様子に目配りができるのですが、遠隔では難しいので、今後はそうした点にも十分に留意しながら授業を行いたいと考えています。

「チャイムがなくても講義が続いていることがあります。特に遠隔授業においてそのようなことがあったのですが、時間内に終了してほしい」という要望がありました。確かに、ブレイクアウトルームの時間を設けたり、チャットの質問に答えたりしていると時間が足りなくなることもあります。Zoom上でも有益な質疑応答が続くことがあり、途中で断ち切ることが難しいこともあります。しかし、今後はあてる人数などを調整しながら、時間内に終了するように努力します。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

遠隔の講義形式の授業で、授業後に毎回、授業で学んだこと、考えたこと、感じたこと、さらに質問等をリアクションペーパーとしてGoogle Classroomを通じて提出してもらい、それらをまとめたファイルを次回授業の冒頭で画面共有しつつ適宜紹介するとともに、質問に回答しました。他学生の感想や質問への回答に刺激されて、さらにリアクションしてくる学生もおり、学生の学習意欲を高めることにつながったのではないかと考えられます。この試みは今後も続けていきたいと思っています。

遠隔双方向授業でパンデミックという視点を取り入れながら哲学講義が進められており、今の時代だからこそ学ぶべき事柄について学べたように感じたが、できれば対面授業でもっと先生やクラスメイトといろいろ話し合いたかった、という意見がありました。オンライン授業が今後いつまで続くのか分かりませんが、今回の遠隔授業の存在のおかげで、通常の授業の利点と欠点も同時に逆照射された

ように思います。通常授業に復帰したときにも今回得た知見を生かしていきたいと思います。

遠隔授業となった2020年度後期ではありましたが、授業評価アンケートの集計結果をみると、設問1（出席の程度）についてみると、「すべて出席した」「1～2度欠席した」を合わせると、約9割に至っており、出席に関してはまず良好な結果となりました。設問3・4のシラバス関係も「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合わせると9割に達しており、シラバスに基づく授業の展開、およびシラバスの有効性が示されたかたちとなりました。設問13「総合的満足度」も「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合わせて9割以上となっており、哲学専攻の学生たちの満足度が高いことがわかります。

報告日：2021 年 6 月 10 日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：人文学科日本文学専攻

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：今井久代

■検討会実施日 2021 年 5 月 26 日

■出席者数 8 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

・講義のうち、期末レポートにはフィードバックしたものの、ミニレポート数回のフィードバックがほしかったという旨の記述がありました。ミニレポートは、授業内容を理解したかどうかを確認するためのものであったため、一人一人のフィードバックには適さないと判断し、フィードバックしなかったのですが、今後正解例とそれについての総括のような文書を作り、web クラスにアップしていきたいと思います。

・Google フォームなど、課題の提出がきちんと受け取られていたか不安だったというものがありました。この方とは別に、その都度きちんと提出できていたかどうかを不安に思って問い合わせしてくる人もいます。問い合わせには応じますし、自動設定で受け取ったというメールを送信するシステムについて調べて設定するなどしたいと考えます。またそうしたお知らせメールは cis アドレスに届きますので、学生の皆さんもこまめに確認して下さい。それから、web クラスや Google Classroom には自動お知らせ機能もあるようなので、学生の皆さんの方でも、いろいろ心配な方は、その設定を無効にしないようにして下さい。

・課題へのレポートが毎週だとつらい、あるいはオンデマンド授業で、資料だけ見て課題を解くのは大変だという話も聞きました。このあたり、教員の方も気をつけていきます。

・プリントに加えて授業内容を話していく場合は、それが早口すぎて大変だったとか、プリントのどの部分かわからなくなったといったコメントもありました。このあたり心がけてゆきたいですし、またつい聞き逃した場合は、録音を聞き直すなどしてもらえるとありがたいです。

・最後の 10 分間、zoom のチャット機能で質問を、というコーナーが、授業で説明する授業内容が多くなるにつれ、実施されなくなったのが残念だったという回答もありました。また逆にオンデマンド授業だけではということで、半期 14 回授業のうち 3~4 回 zoom で質問受け付けますのコーナーを設けたところ、好評だったという話もありました。授業内容としてお伝えすべき内容もあるため、フィードバック時間をなかなか取れないこともあります。毎回ではなくまとめて、などのようにして、そうした時間を取っていくよう工夫していきます。

・用意されたテキストとは別に授業の要点があるプリントが役に立った、またそのアップロードが早めでありがたかったという意見もありました。プリントする十分な時間が取れるよう、プリントのアップロードを早めにしていくことを、今後も心がけていきます。

・授業内のクイズテストが楽しかったという意見もありました。Zoom の投票機能を使うなどして、授業内の遊びの部分も工夫していきます。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

・限られた授業時間において、フィードバックをどう効率よくやってゆくか、また課題内容によっては個別に一つ一つ解答するのが労力のわりに必ずしも適切でない場合もありますので、工夫してゆきます。具体的には、解答例や、全体に教員の方から総括した講評、あるいは皆さんからもらったコメントや課題などのうち、特に参考になるものをなどをまとめる、などの文書を作って、web クラスや Google Classroom にアップロードするといったやり方や、またオンデマンド授業の場合だと、毎回で

はなく数回に1回という形で、質問コーナーzoomタイムというのを設けるなどの工夫をしてみたいと思います。

- ・また、相互に友だちが書いた解答や、それに対する教員側のコメントを読むことのできる Google Classroom の「質問」という機能を使って課題（というより授業に対する質問や感想など）を提出してもらい、交流とフィードバックの場にしてゆくという方法も適宜利用していきます。
- ・プリントのアップロードなどの時間は早めを心がけていきます。

報告日：2021 年 6 月 30 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：人文学科歴史文化専攻
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：坂下史
- 検討会実施日 2021 年 6 月 16 日（オンライン専攻会議）
- 出席者数 8 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

オンデマンド型授業で資料を解説する文章を Web Class におきました。これについての受講生からの指摘に、「説明の文章が長いために要点がつかみ難い」、「解説の方法を再考して欲しい」といった記述がありました。教室で語るような感じの再現を意図しましたが、それが十分に伝わっていなかったことが分かりました。遠隔授業における学生との円滑なコミュニケーション保持の難しさと重要性を改めて認識しました。どの授業でも学生との情報交換を緊密にし、提示する資料類については内容や分量を精査し、分かりやすいかたちで提示するように留意します。

同時双方向型のオンライン講義で学生の回線負担を軽減する配慮をしました。このような状況だからこそ学べることは何かを考え、音声による講義（「ラジオ講義」）を実践しました。これに対して、画像が無かったために話に追いつけなかった、といった反応がありました。今後に向けてよりよい方法を考えていきます。一方で、この形式だからこそしっかりと学べたという意見も多く、全体として見ると一長一短だったと思います。特に、聞いた言葉を自分で吟味して思考するという点では高評価を得たといえるでしょう。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

2018 年度以来、歴史文化専攻では以下の 3 点を掲げて、これに重点的に取り組んできました。

- (1) 参考文献の紹介・指示は、ひきつづき丁寧な実施に取り組みます。シラバスへの掲載だけで済まらず、授業中に学生たちへ直接案内し、しかも口頭で済ますことなく、最低でも板書し、可能な限りプリントを用意して配布します。
- (2) 講義科目において、質問時間の確保を図り、また、積極的に受講者に質問を促します。当座での発言の引き出しが進まない場合には、質問用紙の配布・回収といった手立ても考えます。
- (3) 演習では、報告者以外にも何らかのコメント書面の準備（さらにはクラスへの配布）を課すことも促進します。

20 年度後期も各教員がこの 3 点に留意し、遠隔授業下での可能なことを行いました。しかし、対面授業のような、意図が明快な実践には至らなかったかも知れません。上記 3 点は次年度以降に引き継がれて、取り組みが継続されます。

以下は遠隔授業の経験を踏まえたものです。

遠隔授業は試験の実施方法に制限があるため、平常点を重視する傾向が強まり、教員は毎回、簡単で小さな課題を出すことになりがちです。多くの授業を履修している学生にとっては、課題が蓄積して多大な負担になったようです。さらにまた、学生は毎日自宅でパソコンに向かい続けることで、対面とは違う多大な疲労の蓄積を経験している様子が見て取れました。こうした状況下では、教員側が適宜柔軟性を発揮することが、対面授業以上に重要であることが分かりました。遠隔授業が幅広く実施されている場合は、受講生とのコミュニケーションを緊密にして、必要に応じて課題の量を調整し

ていくことを考えます。

2020年度の特異な状況を考えれば、全く同じような講義が今後行われる機会はおそらくないと思います。しかし、特異な状況下でのオンライン講義を通じて、参加学生から「まとめ」の一言をもらう時間を設けることが、授業内容の理解度を高めるのに有効なことを再認識しました。今後の講義に活かします。

2020年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2021年6月5日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：国際社会学科国際関係専攻

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：黒沢文貴

■検討会実施日 2021年 5月 12日

■出席者数 12名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

zoomでのリアルタイム講義を行う際、学生の通信環境に配慮し、授業後に録音データをClassroom上で毎回公開しました。履修者アンケートでは「音声」ではなく「動画」を公開してほしいとの声がありました。通信環境の悪い学生向けの配慮であることに鑑み、通信量の大きい動画ではなく、今後も（遠隔授業が継続される場合は）音声の公開としたいと思います。ただし、授業内で画像やウェブページを提示している箇所は音声で聞いても分かりにくいので、何を見させているのか口頭で丁寧に説明するよう一層気を付けるようにしたいです。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

1年ゼミでの学生の発言の際、発言者の偏りが見られることがあります。その場合、対面であれば学生の様子を見ながら発言を促すことができるが、オンラインだと学生がビデオをオフにしているため（オンにするよう促してもオフのままの場合も強制はしにくい）、教員から学生の発言を求めにくい状況があります。ただその時でも、教員が積極的に声がけをする必要があると思われれます。

報告日：2021 年 5 月 28 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：国際社会学科経済学専攻
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：竹内健蔵
- 検討会実施日 2021 年 5 月 23 日（日）オンライン実施
- 出席者数 7 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

- ・積極的に時事問題を取り上げたのはよかったようです。特に学生がお互いにどのような点に関心を持っているかがわかった点について評判がよかったので、今後も継続していきたいと思います。
- ・他専攻の人には経済用語になじみが薄く、わかりにくかったようです。具体的な例を引いたり、新聞から事例を出したりして授業の再構成をしていくようにします。
- ・収録時間が 90 分を超えて長引いてしまった点の指摘がありました。授業時間を守るようにしたいと思います。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

- ・リアルタイム型の授業について、録画して公開してほしいという要望があり、期限を切って公開するようにしました。しかし、いつでも見られるという油断から集中度が下がったり、見ないで動画を溜めてしまうことがあるので十分に気をつけてください。
- ・演習では、内容に関心を持つ学生と持たない学生に二極化したようなところがあり、関心の低い学生に関心を持たせることがうまくできませんでした。現在は英文テキストの内容に関連したクイズを出したりして関心を持ってもらえるようにしています。
- ・社会問題に関する映像資料を視聴してもらい、その問題の何が SDGs のゴールとターゲットのどこに関連するか該当する箇所をすべて抜きだしてもらいなど、主体性を持った取り組みを進めています。
- ・各自の担当に関して、関心を持った取り組み事例を報告してもらい、WebClass の会議室機能を使って、各報告者へのコメントと質問、それに対する応答を書き込んでもらうようにしました。報告については、各自がスライドに動画を挿入したりと工夫をこらした報告となり、内容に精粗はあるものの、楽しめたと思います。

2020年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2021年 7月16日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：国際社会学科社会学専攻
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：中村真人
- 検討会実施日 2021年 5月 31日
- 出席者数 5名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

遠隔主体の授業形態のなかで、教員・学生とも困難を経験しながらも、それぞれ全力で努力し、勉学の効果を上げることができました。

社会環境からもたらされた制約は、学びの課題でもあります。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

社会学というディシプリン(この学問領域独自の課題・対象・方法)を重視し、安価な功利主義に走らない主題と教材の選択を行います。これを講義、演習、実習を通じて実践し、成果が社会的に認められてきた社会学専攻の教育・研究方針を維持します。

報告日：2021 年 6 月 25 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：国際社会学科コミュニティ構想専攻
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：伊奈正人
- 検討会実施日 2021 年 4 月 27 日
- 出席者数 4 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

「いきなり討論しろといわれても困る」という意見がありましたが、教員は自分が書いた著作などは読んでいることを前提にして授業していることは理解してください。

シラバスの体系的などについてのコメントですが、ワークショップ形式の授業の場合、体系的な議論の展開では見過ごしてしまうものを気づきとして拾い上げ、絶えず内容を修正してゆくところに最大のポイントがあります。そのため、シラバスは簡素に書いている場合もあることは理解してもらいたいです。

レポートその他のフィードバック、レポートや答案を書くスキルの問題などが必要なことは、確認しました。

リモートにおけるカメラオンの問題は、専攻独自の調査でも認識しています。一方で通信環境の問題やプライバシーの問題などは重視されなくてはならないですが、他方で、就職活動や拠点実習などにおけるインターンシップなどを想定するならば、「カメラをオンにするエチケット」にも理解を求める教員の意見も理解してもらいたいです。

「課題が多い」「課題の期限が厳しい」といった意見は大学を超えて問題になっていますが、これは自覚を持って勉強していただくしかないのではないのでしょうか。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

ワークショップ型の授業におけるシラバスの記載法に関しては、他大の例も研究して、改善してゆきたいと思います。このことについて、実践的研究計画法の授業などでさらに議論を深めてゆくつもりです。実習室を学生に開放しました。

ミニ討論をしてみてください。

匿名質問ボードなどで意見を述べられるようにしたいと思います。

2020 年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2021 年 5 月 31 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：心理・コミュニケーション学科心理学専攻
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：田中章浩
- 検討会実施日 2021 年 5 月 13 日
- 出席者数 8 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

・課題を出す場合、Google Classroom 上でリマインド機能がついている形で出題してほしいとの要望がありました。本来は自身で管理するものですが、教員側としても「資料」として課題を出題したり、毎回同じリンク先から投稿する形はなるべく避けて、毎回「課題」というトピックを作成することを検討します。

・ブレイクアウトセッションは4人以上では会話がかぶってしまったりして話しにくいので、2人または3人にしてほしいという要望がありました。科目によっては受講者が非常に多いため対応が難しいこともありますが、議論しやすいように司会者とフォロワーの役割分担を決めるなどの工夫もしつつ、授業ごとに適正人数を検討していきます。

・「クイズ」がテストだとは思わなかったのでクイズと呼ぶのはやめてほしいとの意見がありました。「授業内試験」のことを英語では in-class quiz と呼びます。シラバスにも成績評価について「クイズ」が何%と明記していたり、授業内でも資料にもどのような形式のテストであるかを説明をしておりますが、確認していなかったり、理解していなかったりした学生がいたようですので、呼称やアナウンスの方法について検討していきます。

・資料をアップロードするのが遅いと印刷ができずに困るという意見がありました。授業ごとに「授業前日 18:00 までにアップする」のようにあらかじめアップロード予定日時を明示するように努力します。

・「課題に 10 時間もかかって重すぎるので、課題に割くべき時間を明確にしてほしい」との要望がありました。どの程度時間を割くかは学生の裁量ではありますが、取り組む時間や分量の目安についてはこれまでも伝えてきました。自分自身で考えることを推奨しますが、より具体的な数値を示せる場合には示すようにします。

・オンデマンドとリアルタイムでのディスカッションを組み合わせた授業形態について、「やりにくい」という意見がある一方で、「他の学生の考えを知れてよかった」「議論できて面白かった」といった意見もありました。この形態は文部科学省推奨ですが、時間が長引くなどの問題が起こらないように配慮しつつ、同時双方向型のよさを生かした授業を今後も工夫していきます。

・オンデマンドとリアルタイムを併用した授業で、「オンデマンド動画の時間が長い」という意見がありました。今後は、学生の集中力などにも配慮しつつ適切な長さになるように検討していきます。ただし、文部科学省の定義では授業時間外の学修も含めて単位数が決められていますので（例：2 単位の授業であれば週に 2 時間）、オンデマンド動画とリアルタイムの時間を合わせて 90 分を超えることは十分にありうることだとご理解ください。

・グーグルクラスルームにあがった資料（パワーポイントの）と当日のスライドが異なることについての不満がありました。授業の初めに資料としては配布できないもの（著作権なども関係し）についての説明をしており、これについては理解をいただきたいと思えます。また、当日のスライドには口頭での説明をアニメーションで挿入しているものがあり、そのため資料には反映されていませんが、それらがなくてもクラスルームに出ている資料によって十分に理解できると考えます。

・その他、教員がシラバスや口頭で伝えていることが伝わっておらず、要望として記述されているケースが散見されました。教員側もよりわかりやすく伝えるように工夫していきますが、学生のみならずシラバスを十分に読むなどして、必要な情報を能動的に確認する努力をしてほしいと思います。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

・授業後のコメントペーパーにあった質問・コメントについて次の授業の初めに解説を加えたり、そこから広げて新たな情報を提供したりしたことが、授業理解を深められたこと、関連するトピックに興味をもてたこと、他者のコメントを共有することで学ぶ姿勢により刺激となったこと、というような肯定的な評価としてあがっていました。今後もコメントペーパーなどで得られたコメントや疑問をとりあげて、発展した学習の機会や主体的な学びの場を提供していきたいと思います。

・前回、「図表などを示したり、配付したりすることや、映像を使用することが、学生の理解を深めることに寄与していることが読み取れたので、今後も、継続していきたい」と報告しました。こうした試みを継続した結果、「内容自体は難しかったが、資料はわかりやすかった」「教員がさまざまな研究例を挙げて説明することで、理解が深まった」といった意見がありました。また、これらの工夫に加えて、ミニ実験を実施することが学生の興味と理解を高めている事例が報告されました。とりわけ同時双方向型授業のメリットを最大限生かして、ミニ実験の結果をZoomやClassroomでリアルタイムに回答を受講者間で共有するという方法が好評でした。今後も引き続き、こうした工夫を継続していきたいと考えています。

報告日：2021 年 5 月 31 日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：心理・コミュニケーション学科コミュニケーション専攻

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：有馬明恵

■検討会実施日 2021 年 5 月 12 日

■出席者数 15 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

コメント：毎回グループディスカッションが組み込まれていたため他の生徒の意見も聞けて良かったです。

フィードバック：講義を一方的に聞くだけでなく、なるべく意見交換をしたり、コメントをクラスで共有したりする機会を維持しようと思います。

コメント：授業資料が分かりやすかったです。教科書が文字ばかりで説明されている分、配布資料のビジュアルで理解できました。とてもわかりやすい授業をありがとうございました、ためになりました。

フィードバック：初めて担当する授業だったので学生からの反応が不安で悩みましたが、安心しました。今後も努力します。

フィードバック：どの科目も履修者がとても協力的でした。ありがとうございました。「とても面白かった」というコメントがある一方、「十分理解できたか」の点数が全体の平均より低い科目につきましては学期中の課題へのフィードバックとその共有などをもっと活かしていきたいと思っています。

コメント：概論系の授業は1限にするべきでない。非常に眠い。

フィードバック：本学では1～5限に授業が配置されています。専攻や学科の必修科目については、大学全体での教室割り当ての都合上、1限や5限に配置されることが多くなっています。1日の時間を有効に活用するためにも早起きを心がけてもらえると嬉しいです。

コメント：授業に出てくる言葉は、聞き慣れなく、難しいものが多かったですが、先生が具体的な例などを挙げてお話して下さったので、理解することが出来ました。ありがとうございました。

フィードバック：ありがとうございます。オンライン授業のため受講生の反応がわかりにくく心配していました。よりわかりやすい事例、より分かりやすい説明を今後も心がけるようにします。

コメント：休憩時間をもう少し長く設けてほしい。

フィードバック：オンライン授業で画面を見続ける学生のみなさんが目を休ませるために、授業中の切りの良いところで1～3分の休憩を設けるようにしました。そもそも大学の授業は90分間ですので、5分、10分と休み時間を設けてしまうと授業時間を確保できないこととなります。「目を休めるための時間」という認識を受講生と教員で共有できるように心がけます。

コメント：質問の機会はあまりなく感じた。

フィードバック：オンラインの講義科目において途中や授業の終わりに「質問があれば」と声を掛けていましたが、質問しづらかったかもしれません。チャットを有効活用する、ほぼ毎回行っていた Google フォームによる復習のためのクイズの最後に「質問コーナー」を設けるなどの工夫を今後はしていきたいと思っています。

コメント：先生の政治的思想が偏っているように感じた。どのような考え方を持っていたとしてもそれは自由なので咎めるつもりはないが、あくまでも教育をする立場なのだから授業中は中立性を保ってほしいと思った。

フィードバック：貴重なご意見、ありがとうございます。授業でとりあげたテーマは意見が分かれるものもあり、個人の数だけ意見があることも想定されます。教員の意見に論理的に異議を唱えるコメントが受講生からあれば、他の学生たちにとっても多様な気づきにつながりますので、むしろ歓迎します。また、教員の主張への賛否含め「中立」とは何かという議論を授業の中で取り上げることや受講生同士で話し合うことを今後はしていけたらと思います。

コメント：全面オンライン授業だったため、学生同士の交流が少なかったことは残念だった。今回は、受講する学生の人数が多かったが、少なかった場合、ブレイクアウトルームの実施頻度が高ければ良いと思った。

フィードバック：ご指摘の通りです。人数が多かったからかブレイクアウトルームでネットから落ちてしまう学生が多数おり、その後予定していたブレイクアウトルームを断念しました。他の先生方から人数が多い場合にどのようにブレイクアウトルームを実施するとうまくいくかなどを教えてもらっているところです。また、ブレイクアウトルームではない方法での学生同士のディスカッション、意見交換をする方法についても検討していきます。

コメント：検定対策の授業でしたが、一方向ではなく、双方向的な授業で良かったです。

フィードバック：ありがとうございます。検定対策となると覚えることが沢山ありますが、それでも授業時間内は皆でひとつのことを一緒に考える時間を大切にしています。これからも検定対策授業であっても様々な工夫をしていきたいと思います。

コメント：初めての心理・コミュニケーション学科の授業だったのですが、授業についていけるかどうかの心配は杞憂に終わり、非常に楽しく受講させていただきました。この授業を勉強できたことで知見をかなり広げることができたと思っています。ありがとうございました。

フィードバック：オンライン授業は不安でしたが、コメントペーパーでみなさんがしっかりと書いてくださる異文化についての視点を読み、相互に学ぶことができた授業となったことを実感しました。

コメント：配布された資料に誤記が多く、そのせいで授業後のクイズで点数を落としてしまいました。

フィードバック：オンラインで行われることになったため、より快適に受講し内容を理解してもらうために、急遽、授業開始前に全回のパワーポイント資料などをプリントアウトして受講生宛てに郵送いたしました。見直しが充分でなかったことが原因です。授業を行う時点では訂正・加筆したものを Zoom で提示しましたが、訂正箇所について言及すべきであったと思います。今後は、なるべく配布前に資料を見直し、誤記については授業時に口頭で説明し、新しいパワーポイントではどこが訂正されたかがわかるように提示します。訂正箇所については、聞き逃すこともあるので口頭で説明して更にチャットに記入します。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

【授業のコメント/質問】

・約 50 名ほどの受講生全員の前回授業時のコメントや質問（任意）を無記名で一覧にした資料（A4 サイズ）を毎回作成、配布して、同じ授業を聞いた他の受講者の様々な考えや着眼を共有しています。

- ・授業時のコメントをまとめて、翌週には Google Classroom で全員が読めるように共有しています。これまで授業終了後に慌てて紙に書いて提出した学生が多かったが、オンライン授業では授業後に時間指定をして書いてもらっています。その方法のほうがじっくり考えて沢山書いてくれる学生が多く、充実した深い内容のコメントが多いようです。
- ・翌週授業時間の最初に口頭でいくつかコメントについて言及して共有しています。
- ・毎回コメントペーパー提出をお願いしています。授業のコメントと質問と両方受け付けます。質問に対しては次回の授業までに必ず個別メールで返答しています。
- ・他の人のコメントを読んで学生それぞれの学習効果があがっていると感じます。回を追う毎にコメントがだんだん洗練されてきた。様子がわかります。
- ・100 から 200 字、など文字数をあらかじめ指定しておくで「もっと書きたい」と学生から要望がでてしまいました。
- ・毎週の課題にひとりひとりが熱心に考えて回答してくれましたので、対面授業では見逃しやすい個性的な思考にも触れることができたのはよかったです。量が多すぎて担当者も履修者も大変でした。内容のある答えを短く書けるように、各回の問いかけの仕方に工夫を重ねていきたいと思います。
- ・一番最後に「書きたいことを何でも書いてもよい」という欄を別途設定しておくで任意で関連した話題を書いてくれる方もいますので更に工夫したいと思います。

【双方向性】

- ・講義を一方向的に聞くだけでなく、なるべく意見交換をしたり、コメントをクラスで共有する機会を維持しようと思います。
- ・検定試験対策を中心とした授業であっても、時間内は皆でひとつのことを一緒に考える時間を大切にしています。これからも様々な工夫をしていきたいと思います。
- ・教科書では文字でしか説明がありませんが、授業ではビジュアル資料を多く使用して、現実の素材を使った具体的なイメージを提示できるようにしたいと思います。
- ・今期は、コロナ禍で自分たちで調査票を作って調査票を配布するという作業が難しく、既存のデータを二次加工した実習となりました。ネット上で調査回答を募る方法でも、100 名を超える履修者で新たに一つの調査を実施するのは難しいと感じます。今後の状況により更に工夫を重ねます。今回の二次加工の場合、既に完結した調査であるため結果が出やすい、多様な分析を試みることが出来る、考察やまとめなど報告書作成をより丁寧に指導するなど時間をかけられる、など利点も見受けられました。

【その他】

- ・より理解を深めてもらうために、実習課題で動画を用意したので復習にも役立ててもらえました。
- ・より快適に受講し内容を理解してもらうために、授業開始前に全ての回のパワーポイント資料などをプリントアウトし受講生の自宅宛てに急遽、郵送したところ喜ばれました。

2020年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2021年6月18日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：数理科学科・数学専攻

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：竹内敦司

■検討会実施日：2021年 5月 21日

■出席者数：7名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

(1) 遠隔授業では他の授業でも課題が多く出されているということを踏まえ、2020年度後期は課題の分量や頻度を調節するようにしてきましたが、ちょうど良いという意見もあれば、多いと感じる意見もありました。数学では自分でしっかりと問題を解くことで理解が深まり、次に繋がってゆくことも多くありますので、溜め込み過ぎないように注意して、出された課題に頑張っ取り組んでもらいたいと思います。また、その中で疑問に感じるような事柄などがあれば、遠慮せずにその都度、質問するなどにより、できるだけ早期に解消するようにして下さい。

(2) 授業によっては進行の速度が早いという意見もありました。数学の授業の場合、どうしても書くことが多くなりますので、早過ぎると感じた場合は、次の説明に進む前に時間を取って欲しいということ、授業担当者に伝えて下さい。授業によっては、スライドや資料、授業の録画などがGoogle Classroom等に掲載されるものもありますので、これらを活用するのも一つの方法です。

(3) 授業内容について、遠隔授業ということで、これまでの対面授業とは全く異なる様式で実施しましたが、分かりやすかったという意見も多くありました。また同じ授業でも、難しかったという意見もありました。授業内容を理解するには、授業を受け身で聴くだけでなく、自ら積極的に理解しようとする姿勢が必要となります。その中でもし何か不明な点や疑問点があれば、どんなに小さなことであっても積極的に質問して下さい。実際に質問をし、授業担当者による丁寧な回答を得ることによって、理解が深まったという意見もありました。さらに前回の授業内容の復習も重要な作業です。是非しっかりと取り組んで下さい。

(4) 2020年度は前期および後期を通じて、遠隔授業を様々な方法で実施してきました。学生の皆さんにとっても初めての経験で、不安な部分もあったかと思いますが、授業担当者のいろいろな工夫もあり、良かったという感想が多くありました。遠隔での授業方法については今後も色々模索しながら改良を重ねてゆくこととなりますが、学生の皆さんも遠隔で受ける授業のメリットを最大限活用して、自身の理解を深めて行ってほしいです。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

(1) 遠隔授業は通常、ビデオ機能をオフに行われますので、学生の皆さんの理解状況を把握するのが難しいということがあります。実際、対面授業であれば、授業に参加している学生の様子を見ながら、補足説明が必要なところは追加したりすることができます。もし感染状況に伴う対策が許されるのであれば、数学の授業は基本的には対面での実施を主にしたいと考えています。

(2) それぞれの授業内での課題は、学生の皆さんが授業を復習する習慣を身につけ、理解を定着させるために課すようにしています。対面授業の場合、ある程度の量を課題として課される方が、授業の復習

に役立てられると考えている学生が多くいます。一方で遠隔授業の場合、他の授業での課題も同時に出されることもありますので、適切な分量や頻度となるように心がけたいと思います。

(3) 対面授業での授業中の私語について、これまで議論が行われてきました。この点については、新学のガイダンスでも指導し、授業時には担当教員がその都度注意を与えています。しかし2020年度は遠隔授業ということもあり、その点については特に問題はありませんでした。

2020 年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2021 年 6 月 24 日

- 検討組織名 (学科・専攻、研究所、科目運営委員会等)： 数理科学科情報理学専攻
- 責任者名 (学科・専攻主任、所長、委員長等)： 荻田武史
- 検討会実施日 2021 年 5 月 29 日
- 出席者数 7 名 (内、非常勤講師 0 名)

1. 学生へのフィードバック (学生の要望に対する具体的な回答)

・コメントシートに「ずっと遠隔が良い」と書いて来た学生もいました。Zoom によるリアルタイムオンラインで、電子黒板で板書しながらの授業だったので、通常授業に近い受講環境が得られながらも、通学時間が不要、手元の PC でよく見える、Zoom 録画と電子黒板ファイルで復習もできるといったメリットがあったようです。

・「多くの資料や図を用いながら 1 つ 1 つ段階を追って説明してくださり、また質問にも丁寧に答えてくださったため、文系の私でも理解しやすく、とても満足のできる授業でした。機会があれば、また先生の授業を履修したいと思っています。」という学生の自由記述がありました。

・「動画でいつでも見直すことができ、動画もわかりやすい言葉を選んで説明してくださっており、非常にわかりやすかったです。」という学生の自由記述がありました。

・「Python を用いる演習の時に説明が早すぎてパニックになってしまった。もう少しゆっくり説明してほしい。」

→ Zoom での授業で皆さんの状態が把握しきれなかったかもしれません。質問があればチャットなどでいつでもどうぞ、と話していたので遠慮なく聞いてください。

・「Windows だけでなく Mac にもその場で対応してほしい。」

→ なるべく対応したいと思いますが、遠隔だと皆さんのコンピュータが見えないこと、特に、特殊な状況に陥っている場合は Windows でも Mac でもその場ですぐに対応できないこともあります。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

・以前からほぼ毎週に課題を出していましたが、次の週に回収し、その次の週に返却といった遅いサイクルでした。2020 年度は Google Classroom を利用したので、1 週間以内に回収と返却のサイクルを回すことができました。大学院生の TA にチェックとコメントを貰ったことで、意欲が刺激された側面もあったのではないかと思います。

・Zoom 録画へのアクセス情報を 1 週間公開し、電子黒板も PDF ファイルとして Google Classroom にアップロードしたので、復習しやすかったのではないかと思います。何も考えずに板書を写すだけの状態にならないように普段から指導していますが、その意味でも記録が残るのは良かったと思います。

・LINE オープンチャットやパパパコメントといったツールによって遠隔授業に相互作用を取り入れることを試みました。授業の性質上からか、利用頻度は高くなかったのですが、無駄に遊ぶことなく、必要なだけ利用があったのだろうと解釈しています。

・遠隔授業を Zoom と Google Classroom を用いて行いました。数学の演習は、授業では例題を解説し、似た問題を授業外で課題として解いてもらうという方法で行いました。また、出題した回の次々回の授業の最初に、どのような誤りがあったかも含めて課題の解答例の解説を行いました。一方、プ

プログラミング演習は、環境に依らずに利用可能なクラウドサービスの Google Colaboratory を用いて行いました。授業中に一緒に作業を行ってもらい、数学的な内容を視覚化して理解を促すよう努めました。今後も、これらの工夫をより洗練しながら行っていく予定です。

- ・2020年度は遠隔授業だったこともあり、プログラミング環境を各自で用意してもらう必要がありました。家で使っている PC の環境は学生ごとにまちまちなので、クラウド型のプログラミング環境である Google Colaboratory を利用することにしました。初回の授業で設定を行った後は特段の問題もなく、notebook 形式で配布した課題のプログラムは、予習・復習にも役立っていたようです。

- ・2020年度は、Zoom による同時双方型と動画視聴のオンデマンド型を併用しておこないました。授業の開始時の Zoom では、前回の授業時に出した小問の解説と質問に対する回答をおこない、その後動画視聴に移行しました。文系の学生（国際英語）から満足できる授業だったとのコメントをいただきました。

- ・教室の授業では演習問題を黒板に書いてもらっていたのですが、2020年度は Zoom による遠隔授業だったので順番に当てて答えてもらうことが難しかったです。Zoom のホワイトボード機能を利用したりもしましたが、それよりもチャットで教員にだけ答えてもらう方が答えやすかったように感じました。理解できているかどうか反応を見ることが難しかったので全員が気楽に答えられるような方法を工夫したいと思います。

2020年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2021年 11 月 26 日

- 検討組織名：女性学研究所
- 責任者名：女性学研究所 所長 唐澤真弓
- 検討会実施日 2021年 11 月 24日
- 出席者数 4名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

※女性学研究所は、本設問は対象外（FD委員会）

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

女性学・ジェンダー関係科目全体として、全科目の回答傾向とくらべると、肯定的な評価が多くなっています。全体と比べて、「設問1出席率」は高く、全体と比べて評価点4、および評価点3と4の合計が高い項目がほとんどでした。女性学・ジェンダー科目への学生の学習意欲が高く、教員はそれに応えるべく、授業教材や内容を工夫し、その結果学生の問題意識を高めることに効果をみる事ができたと考えています。「設問10 授業運営の適切性・公正性（質問の機会等）（93.3%と94.1%）」については、全科目の回答とほぼ同じでした。遠隔授業では学生からのコメントなどに対応することが難しかったためだと考えます。遠隔授業における学生との交流について、リアクションペーパーやチャットをより効果的に使用するなど、学生との交流を工夫していきます。

また、前年度は教室外学習の時間が増えていましたが、今年度は設問2(教室外学習の時間)について、全体傾向より少なくなっていました。設問の違いがあり、直接の比較は難しいですが、授業形態の違いや遠隔授業の疲労を回避するため、授業時間が短くなっていたことなども理由の一つかもしれません。また、教育の質を保持するために、多くの授業が課題を課したため、差異がなくなったといえるでしょう。今後より詳細な分析を行い、学生の学びを促進する工夫を検討していきます。

昨年度の結果を受け、授業外学習を促すことも狙いとして、女性研の蔵書などの文献紹介や精読を薦めることに務めました。残念ながらそこでの活動は難しくなりましたが。

以上のように学生への女性学・ジェンダーに関する知識などの理解度の点検・配慮をより高めるよう工夫し、女性学・ジェンダー分野の問題についてさらなる学習を促すように、また教室外学習の時間をかけるために課題を増やすなど、より一層努めながら関係科目のさらなる充実を図りたく思います。